

MySkip

5 2013.05 vol.148
2001年1月創刊



秋山孝ポスター美術館長岡 サポートーズ倶楽部会長

高田清太郎さん
Seitaro Takada

Chiga, My-Skip interview

Interviewer 渡辺 千雅

熊本県天草出身、新潟大学教育学部卒
My-Skip代表、Webデザイナー、長岡まつり副実行委員長
長岡フィルムコミッション会長

蔵から「APM」そして摂田屋へ

●宮内駅の隣に「蔵」が建ちましたね

グラフィックデザイナーの秋山孝先生のご依頼で、「APM(秋山孝ポスター美術館長岡蔵)」と名付けた、この4月に完成したばかりです。5年前に、旧北越銀行宮内支店(大正14年建造)の建物を改修して「APM」が開館しましたが、作品の収蔵庫が必要となり、先生の所有地に、「APM」と似せたデザインで建てました。建物は比較的小規模で

すが前面には13m長の雁木が回廊のようになっていて、このスペースが「APM蔵」とも豊かな空間に膨らまっています。収納スペースは十分に確保し、ちょっとしたイベントもできるようにしています。

先生はここを舞台に、長岡に大きなイベントを開催しようと計画中で、それを意識した街づくりを考えています。東京駅から長岡駅、そして宮内駅を降りるまで傘が



●プロフィール 1949年長岡市生まれ。1973年日本大学理工学部建築学科卒業。1976高田建築事務所設立、代表取締役。新潟大学大学院自然科学研究科「建築」非常勤講師。秋山孝ポスター美術館長岡、サポートーズ倶楽部会長。「ドラエモン住宅」「ゆきん子ペンギン」「多塔屋根の家」「ホスピタリティ」などで新潟県建築士事務所協会コンペにて優秀賞・奨励賞等32作品受賞／著書:「楽舞-居場所さがしの旅」2002年、新潟日報事業社「我が家が一番:方眼紙の楽舞に住んで!」2004年、新潟日報社「摂田屋ものがたり」2006年。

要りませんので、さらにそこから「APM蔵」までを雁木で繋ぎました。宮内の奥、摂田屋には6件の国の登録有形文化財に指定された歴史的建造物が残っていますが、宮内駅付近には特徴ある建物がありません。そこで、シンボリックな蔵を建てることにより、蔵から「APM」、そして摂田屋へと、イメージで繋ぐという、先生なりの仕掛けなのです。「APM」も登録有形文化財に申請準備中です。

●秋山先生との出会いは?

お互い宮内・摂田屋生れで、小中高と私達が2年先輩になりますが、面識はありませんでした。8年前に、当社で「リブチの森」という街づくりを始めた時に、キャラクターをつくることになりまして、それなら地元秋山先生に依頼しようとなり、それから本格的なお付き合いの始まりです。

するとね、お互いにいろんなところで深く繋がっていたのです。町内の田上商店の、亡くなったおじいちゃんというのは、弊社の事を随分可愛がってくれて、とてもお世話になった方で、先生はその親戚筋だったので

す。さらに、田上さんは旧北越銀行宮内支店の建物の所有者で、6年前程に手放したいから何とかして欲しいと頼まれました。手放せば確実に解体されるし、個人的には思い入れもあって、残したいと思っていたところに、先生がその建物で「APM」をつくりたいと言ってくれたのです。その時、先生の顔が田上のおじいちゃんの顔と重なり、何か沸々と湧きあがる思いに突き動かされ、先生を応援しようという原動力になりました。先生は言うんですね、宮内はキャンパスだと、そこに街づくりの夢を皆で描いていこうと。僕はAPMのサポートーズ倶楽部会長として、サポート会員の確保に奮闘していますので、ぜひ皆さん、ご協力ください(笑)

●ところで「リブチの森」というのは?

宅地分譲地を始めるにあたり「再び(リ)小さな「リブチ」森をつくらう!」との合言葉から生まれました。

三十数年前、建築家の宮脇増先生(故人)とヨーロッパ7カ国の有名建築を見る研修旅行に参加した時、一番驚いたのはスイスの「アトリエ5(フィンフ)」の設計者たちの事業でした。住宅分譲計画は普通、デベロッパーがやるものですが、そこでは5人の設計者たちが自ら土地を買い、土地造成から建築まで手がけていたのです。その時、「設計屋でも街づくりができるのか!」という強烈な刺激が、「いつか自分も」という夢となり、この「リブチの森」が生まれました。

夢が最初にかかったのは、見附市の「ミトロの森」という医者村(メディカルパーク)でした。大きなケヤキの木をシンボルにして、宇宙が創られた時のような渦のコアを造り、その渦のまわりに惑星を配置するように各診療棟を配置しました。森の精といえどトトロ、10(とう)では完璧すぎるので、もっと小さい核で3(みつ)にしようというので、「ミトロの森」という名前が生まれました。その後、新潟市の「かきの木どおり」と長岡ニュータウン陽光台の「間知づくりプロジェクト」を経て、「リブチの森」に着手しました。

●間知は「まち」と読むのですか

街づくりは間知づくりですから。個々の家々が持つ「間知(距離間)」が街の顔を作ります。距離間の大切さは人の関係だけでなく、家々でも同じですね。また、家と家の

「居方」向かい合い方、並び方」も重要です。至近距離でも方位を少し変えるだけで居心地の良さを確保できたりします。「すま居方」は方向であり、「間知」は距離。この二つが上手に機能することで、より快適なベクトル住環境が作り出されます。

●高田さんがつくる家は、一戸として同じものがないそうですね

住まいは「果舞(実舞)」。果は形、舞は想い。形のむこうに見える家族の想いを大切にしておくっています。オーダーメイドの服から着る人の想いが現れるのと同じように、果舞にも、住む人の想いが時に個性的な形になって現れても、何ら不思議な事ではありません。

ところで、アメリカの文筆家で活動家のジェイン・ジェイコブズさんという方は都市計画の中で、安心安全で暮らしやすく、かつ経済的な活力を生むためには、働く場所や住む場所、娯楽、交通網などを分けてしまわないで、複雑に入り組ませた方が良く主張しています。そういう視点からすると、宮内・摂田屋はちょうど、働く場所もあって、古きもあって、老若男女がいて、理想的な街づくりができるではないでしょうか。

●ネーミングに物語性がありますね。言葉に強い思い入れがあるようにお見受けしますが

小学四年、五年生の担任の影響ですね。週初めの月曜日で雨雪と天気の良い日は生徒が休みがちなので、そんな日に限って、先生が「フロモンの秘宝」とか冒険ものや怖い話をしてくれました。空想力が広がり、楽しい時間でした。また、大学3年の時に出会った「発想法-KJ法」(川喜田二郎著)にも起因します。思いついたことを京大カードに書き留めることで潜在的な自分の言葉と出会うことが出来るようになりました。落語も好きです(笑)。「ゲド戦記」の主人公アレンが、「レバンネン」の真の名で呼ばれると相手の掌中に落ちるのですが、それほど名前には靈魂とパワーが込められているのでしようね。名前はとても大事だし、言葉には命があると思っています。言葉は創造そのものの、想像の母体でもありますから、「はじめに言葉ありき」が私の信条です。

秋山孝ポスター美術館長岡で秋山孝が選んだ30の金貨・高田清太郎建築デザイン哲学展開催中。次回(第14回)「楽舞」をテーマにした映画展の小林茂さんです。